

令和6年度 第1回 印西市社会教育委員会 会議録

- 1 開催日時 令和6年7月25日（木）
14時00分から15時30分まで
- 2 開催場所 印西市立小林公民館 視聴覚室
- 3 出席委員 菊地委員、河村委員、松崎委員、石川委員、
押田委員、馬場委員、松山委員、高橋委員、
箱崎委員、浅倉委員、小島委員、小林委員、
山本委員、青井委員、香取委員、佐藤委員
- 4 欠席委員 片倉委員、今野委員
- 5 事務局の出席 印西市生涯学習課
飯島課長、飯塚係長、川手主任主事、
海老原家庭教育指導員、鈴木社会教育指導員
- 6 内容 議事
(1) 令和6年度生涯学習関連事業について

7 会議要旨

議事（1） 令和6年度生涯学習関連事業について

事務局 事務局より議事（1）【資料1】について説明

委員 原山小学校において、平日開校日に放課後子ども教室を実施しているとのことだが、学童クラブに入れなかった児童を対象に行っていると聞いている。そのことについて、詳細な説明を求める。

事務局 当初原山小学校の学童クラブに入れなかった児童がいたことは承知をしているが、原山地域から学童クラブを含めた放課後の居場所づくりについて、印西市長宛てに、要望書の提出があった。
生涯学習課として、地域の参画や学校のご協力を得られる見込みが立ったことから、今年度の学校始業日から開始したところである。
実施時間については、各学年の授業終了後から教員の終業時間である16時30分までである。

委員 本埜小学校、滝野小学校でも同様の方式で実施しているのか。また、昨年放課後子ども教室について質問した際に、位置付けとして、厚生労働省が推進している子どもの居場所づくりとしてではなく、社会教育の一環とし

て実施していると説明を受けたが、現状、市内の民間学童クラブとの利益相反は無いのか。

事務局 本埜小学校、滝野小学校では、地域の参画を得て、月1回程度体験活動等を実施している。原山小学校での事業は、原山小学校は平日開校日毎日実施している。
また、放課後子ども教室事業の位置付けとして、現在の生涯学習課としては、社会教育の一環として考えている。

委員 他の小学校において、学童クラブに入れなかった児童がいると思われるが、その実態は把握しているか。
また、学童クラブの代替として、本埜小学校や滝野小学校で実施する考えはないか。

事務局 学童クラブの状況については、待機児童が生じていることは把握している。
放課後子ども教室の実施については、地域の方々の参画を得て、地域の方との交流や情操教育などを踏まえて、心豊かな子どもを育成していきたいと考えている。

事務局 子どもの居場所づくりは、行政が担うべきだと考えている。学童クラブ、保育であり、子どもを預ける場所であって、放課後子ども教室は、子どもたちが来たい時に来られる居場所づくりの事業だと考えている。
現在、原山小学校において、モデル的に実施しているが、他にも増やしていきたいと考えている。実施場所については、待機児童の有無に関わらず、ニーズがある地域や、地域の参画が見込まれる地域に導入していきたいと考えている。

委員 子ども家庭庁が子供の居場所づくりに取り組んでいると方針を示しており、全国の自治体に何らかの通知があったと思うが、そのこととの関連について伺う。
また、学校運営協議会、地域学校協働本部との関連性についてどのように考えているか。

事務局 学童クラブについては、基本的に新規で建物を建設して事業を実施するが、放課後子ども教室は、学校の空き教室を利用して、放課後に居場所づくりを行うものであると考えている。東京都では、夜7時まで公共施設を開放して事業を実施していることから、生涯学習課として市の公共施設や民間施設においても実施することを検討している。

委員 これらの問題解決は、生涯学習課だけでは難しいと思う。市長部局との連携など様々な繋がりを持って実施するべきだと思うが、現状はどのようなになっているか。

事務局 行政は、縦割りで考えがちな部分があるが、市民にとっては関係無いことは理解している。ただし、実際のところ連携は出来ていないところであるため、ご意見を今後の事業運営の参考としたい。

委員 1 部署だけではなかなか難しいと思う。子どもに関することは、様々な人に関わっていただけたらいいと思う。

事務局 子どもを取り巻く環境は様々であり、多くの問題があることは認識している。
今後は、連携の仕組みについても検討していきたい。

委員 所管は生涯学習課かもしれないが、多方面の方が関わると良いと思う。

委員 現在、本埜小学校で放課後子ども教室の運営補助をしている。本埜小学校放課後子ども教室では、まとめ役が様々なネットワークを有しており、多様な事業を実施しているが、まとめ役の能力が重要である。
地域に核となる人材がいないと、なかなか実現しないと思う。

事務局 現在、子育て支援課において、子ども子育て計画が策定中であり、放課後子ども教室についても項目が設けられている。
そのことから、計画策定にあたっての会議において、他課に情報共有をしている。
また、学童クラブにおいても、担当者レベルでは情報交換をしている。
また、現在放課後子ども教室に関わっていただいている地域の人々がコミュニティ・スクールに参画していただければ良いと考えている。

事務局 コミュニティ・スクールの活動の一つが放課後子ども教室であると考えている。
地域に開かれた学校運営の中で、学校だけでは子どもたちを取り巻く環境を解決することに限界が来ている中で、その課題解決をしていく中で、地域の方々の協力を得るとというのがコミュニティ・スクールであることから、放課後子ども教室は、その一例であると考えている。

委員 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動は別物である。コミュニティ・スクールが実施する学校運営協議会は、学校の経営方針を議論したり、教職員の任命について検討するもので、放課後子ども教室を実施するのは、地域学校協働本部ではないのか。
コミュニティ・スクールと放課後子ども教室を関連付けてしまうと、法的な問題等が出てきてしまうため、そこは分けて考えるべきである。

議事（１）【資料１】に関する意見・質問等については以上

事務局 事務局より議事（１）【資料２】【資料３】について説明

委員	印西市民アカデミーのカリキュラムは生涯学習課で選定しているのか。
事務局	その通りである。
委員	カリキュラムの中に、千葉ニュータウンの歴史について、学べる講座は無いのか。
事務局	今年度、印西市市史編さん委員が印西市の近現代についてまとめた冊子を作成した。その中には、印西市における千葉ニュータウンの変遷についてもまとめられている。 その冊子の発刊にあたり、記念講演が実施されたことから、アカデミー生を招待し、ちばニュータウンの変遷を含めて、印西市の歴史について、ご受講いただいた。
委員	4番の印西近現代史については、開催される講座にアカデミー生を招待したのか。
事務局	その通りである。
委員	文化ホールのような大きな会場で実施する講座については、一般公開してはどうか。それにより、市民アカデミーの周知にもなり、受講生が増えるのではないか。
事務局	委員ご指摘の事項について、持ち帰り検討したい。
委員	以前実施していた竹中工務店の見学は、企業の良さや考え方に感銘を受けた。今年度は、計画していないようで残念である。 地域にある企業を市民が知る機会を是非作っていただければと思う。
事務局	市内企業との連携については、今年度10番のデータセンターについて学ぶという講座を計画している。印西市は、データセンター銀座と言われるぐらい世界から注目されており、世界的に有名な様々な企業が進出していることから、今後もそういった企業にお力添えをいただき、学ぶ機会を作っていきたい。 また、順天堂大学とも市民アカデミーではお世話になっているが、東京基督教大学とも連携していきたいと考えている。
委員	データセンターの講座は、初めてということで、どのような講座が詳細な説明を求める。
事務局	10番のデータセンターについて学ぶ、はアマゾンデータサービスジャパン合同会社の方々にお越しいただいて、お話しをお伺いいたします。

なぜ印西市に建設することとなったのか、一般的なデータセンターについてのお話し、データセンター事業以外のお話しなどをご講義いただく予定である。

また、企業側と市民側でお互いに求める内容について議論する場も設ける。

委員 私は、以前マブチモーターの見学した経験がある。研究内容が素晴らしく、再び見学出来るようになると良いと思う。
また、順天堂大学の学生や卒業生が様々な場で活躍しており、子どもたちの体操教室等とみていると、一生懸命努力することの素晴らしさを学んでいると感じる。そういったところも見学出来たら良いと思う。

委員 子ども向けのアカデミーも検討してみてもどうか。

委員 データセンターなど印西市に所在する企業の存在は、是非次世代の子どもたちにもっと広めてほしい。何か学びの機会が与えられると良いのでは。

委員 懸念点、課題として、受講生の高齢化が懸念されるとあるが、高齢者が集まっていけないのか。
現在、65歳まで働いていることが普通である。また、平日開催が多いことから、若年層の参加は難しいと思われる。
40代、50代における将来のまちづくりの担い手を育成したいということであれば、夜間や休日開催をしないと集まらない。
市民アカデミーは、退職後に、印西市の歴史を全く知らないような人たちの学習の場であると考えている。
それであれば、高齢化率3割と考えても、人口に対して高齢者が3万人いるにも関わらず、募集人数が30人というのは少なすぎる。

事務局 対象年齢18歳以上を対象としている市民アカデミーの学則に比して、高齢者の応募が多いという趣旨である。
他の市町村を見ると、40～50歳以降の方を事業の対象としていることも多く、高齢者の健康づくりや終活についての講座を実施している例もある。
現在の印西市民アカデミーは、18歳以上を対象としていることから、全世代に幅広くご受講いただけるカリキュラムづくりをしている。
そのうえで、検討段階にも至っていないが、今後は高齢者向けの講座を考えていく必要があるという認識であった。
そういった意味合いで、懸念という言葉を使用した。

議事（１）【資料２】【資料３】に関する意見・質問等については以上

事務局	事務局より議事（１）【資料４】について説明
委員	仕事をしている保護者が増えているが、家庭教育学級にどのような影響があるか。
委員	必修学級の中で、保護者の参加率は。
事務局	コロナ禍により、大幅に人数が減少した。最近では、学年２、３クラスある学校でも、講座の参加者が５～６人、少ない時は２人の事例も出てきている。 また、各学校の講座数も、７回程度実施いただくようお願いをしているが、計画時点で３回程度の学校もある。 ただし、昨年度から回復傾向にあり、先日大規模校で講座を行った際には、３０人ほど集まった。 学校行事で休暇を取得してしまうので、平日の家庭教育学級講座への参加は難しいという声もある。 このような状況であるため、保護者の中で経験者が少なく、どのような形で実施しているのか不安だという声も聞いている。 年度はじめに委員長を集めて説明会を実施しているが、事業内容を詳しく説明してほしいという意見も多い。また、年度末にも何をやっている事業か知らなかったという話もあった。 事業が浸透するには時間がかかると日々感じている。
委員	ある事例で、いじめで困っている保護者がいた際に、どこに相談すべきかわからないという声があった。保護者は繋がりづくりに苦慮している。 こども家庭庁も、保護者同士のつながりが持てるようなカリキュラムも紹介している。 決まった回数はあると思うが、自分の悩みや想いを共有できる機会を作してほしい。
事務局	家庭教育学級のテーマとして、様々な知識や情報を得ること、コミュニケーションを広げること、自分を向上させること、としている。 毎月、子育ては自分育てという趣旨で、かてきょう通信も発行して、伝えている。 家庭教育学級のネーミングが硬い、シアターフォーラムで何をやっているかわからないという意見があるのも承知しているが、保護者に対しては一步踏み出して、絆を深め広めてほしいと伝えている。今後はさらにそのことを応援していくことが必要だと感じている。
委員	学年学級が６学級しかなく、少ないと感じる。 必修学級から学年学級に上がる際に、工夫いただくことで、学級数が増加するのではないか。

委員長や担当が誰になっていただくかが大事だと考える。

事務局

その通りだと思う。運営委員の会議や新入生説明会、入学式など保護者が集まるタイミングで、家庭教育学級の説明をしていただきたいとお願いしたり、家庭教育学級主事である教頭先生に、入学式等の際に、家庭教育学級の説明の時間を設けていただきたいとお願いしている。

1年で築いた仲間づくりを2年以降も続けてほしい想いであるが、コロナ禍の間に、学年学級が無くなってしまったのは非常に残念であるが、今年度はPTA会長が事業を広めてくれて、全学年で学年学級を開設した学校もある。

声かけ、先導していただける方がいると非常にありがたいと思っており、次回の運営会議ではそれを前例として説明していきたい。

委員

是非、学級開設に積極的な人脈をたくさん作ってほしい。

以上

使用した資料

【資料1】議事（1）令和6年度生涯学習関連事業について

【資料2】No. 2 印西市民アカデミーに関する資料

【資料3】議事（1）印西市民アカデミー資料

【資料4】No. 8 家庭教育学級の開設に関する資料

【資料5】令和6年度家庭教育学級 教育講演会 チラシ

令和6年度 第1回 印西市社会教育委員会会議の会議録は、事実と相違ないので、これを承認する。

令和6年9月5日

印西市社会教育委員

署名委員 馬場 みどり